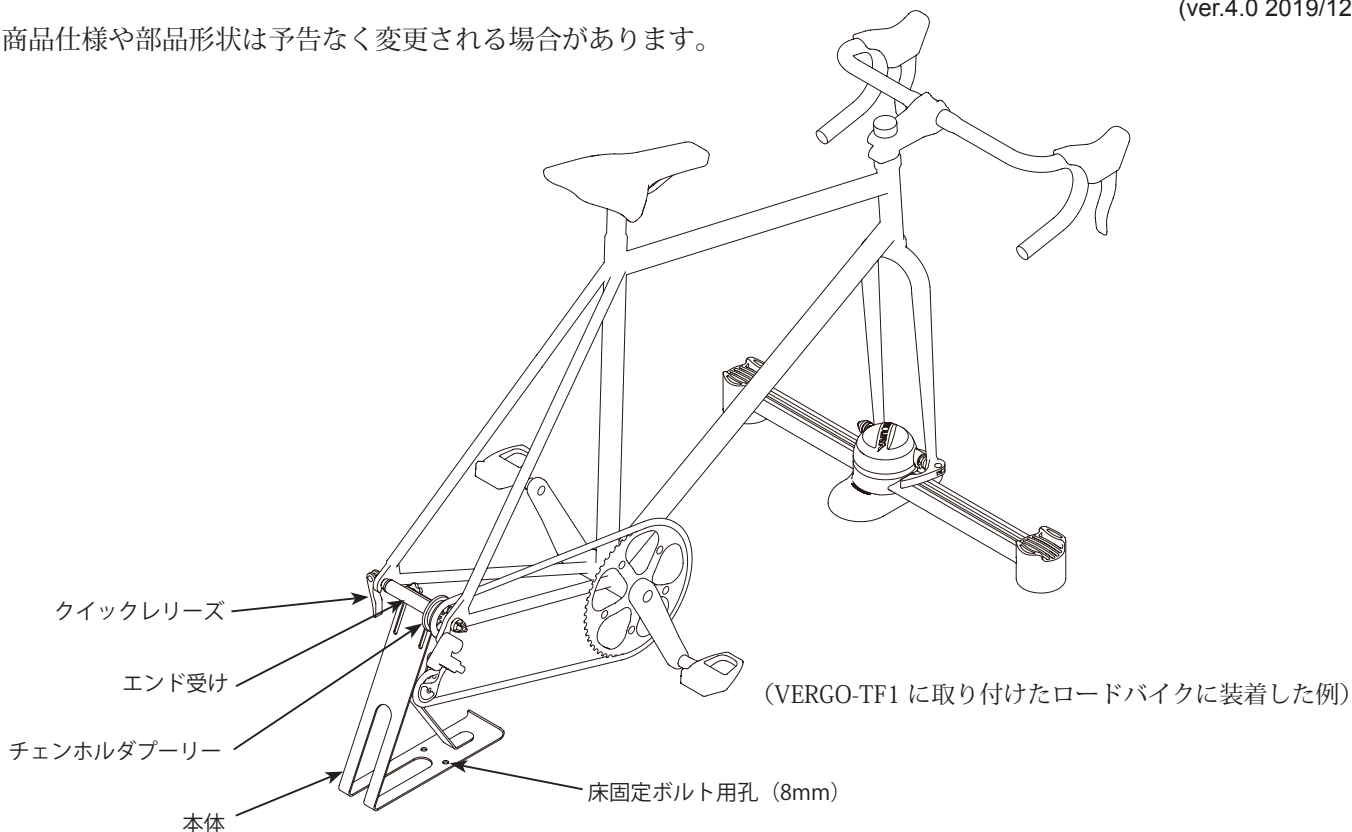


※商品仕様や部品形状は予告なく変更される場合があります。



リアエンドサポート4について

- VERGO-TF などを使って自転車を車載する際に、後輪を取り付けたままでは天井にサドルが当たったり前後長が限られていて載せられない場合に、後輪を取り外した状態での車体を持ち上げて支えるためのスタンドです。
[New] 4では床に直接ボルト固定できるよう、底面に孔を追加しました。
- 一般的な9mmクイックリリース式でフレーム後端の内幅（オーバーロックナット寸法）が**130mm**と**135mm**のもの、および12mmスルーアクスル方式でオーバーロックナット寸法が**142mm**のもの用です。
標準状態ではそれ以外のサイズには対応していませんが、別売のロングタイプのアダプタパイプ（#423-3052-00）に取り替えることで**148mm**の12mmスルーアクスルにも使用できます。
[New] 4ではスルーアクスルでもチェンホルダプーリーが使えるようになりました。
- エンド受けの高さはノブボルトで調整できます。フロントチェンリングが床に当たってしまわない高さに設定してお使いください。
[New] 4ではボルトを締めていても起き得るずり落ち防止のため、単純な長孔からノッチ型に変更されました。
- 後輪を取り外した際のリアディレーラの位置がトップのままではプーリーに掛かるチェーンラインが合わないことがありますので、その際はディレーラを2～3段ほどロー側に動かしてやり、チェーンラインをまっすぐに揃えてチェーンにかかるストレスを減らすようにしてください。

製品保証期間

1年間

本商品の保証期間は、お買い上げ日より起算して1年間です。
製造者側に瑕疵のある不具合に対して、無償修理や部品交換を行いません。
ユーザによる勝手な改造や誤った使い方による破損や故障、あるいは自然摩耗等に関しては保証されません。

必要な工具

3mm 六角レンチ

お問い合わせ先

<製造元>

株式会社 箕浦

〒503-2312

岐阜県安八郡神戸町下宮 134-1

Tel: (0584) 27-3131 / Fax: (0584) 27-7505

Mail: infodesk@minoura.jp (カスタマーサービス)

Web: www.minoura.jp

日本製

<販売元>

株式会社 フカヤ

〒460-0015

愛知県名古屋市中区大井町 1-37 フカヤビル 3F

Tel: (052) 228-8910 / Fax: (052) 228-8917

Web: www.fukaya-nagoya.co.jp

9mm クイックリリースの場合

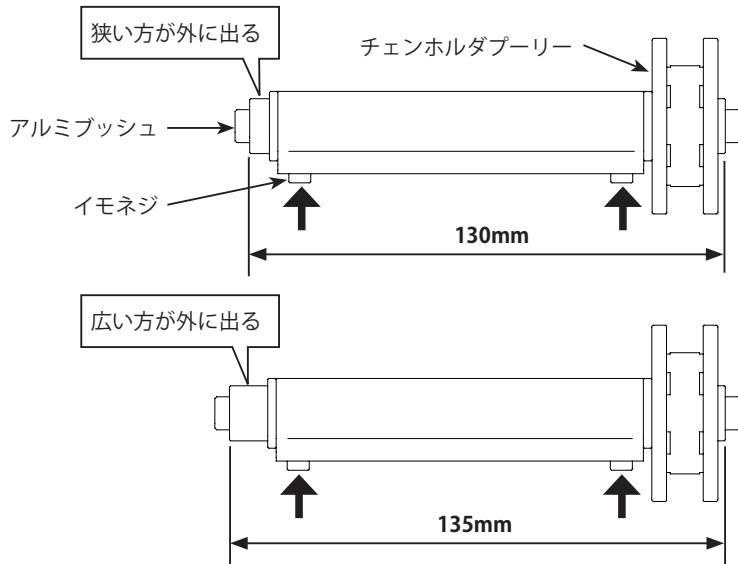
- 1** まず取り付けられているクイックリリースを抜き取ります。続いて、チェーンホルダプーリーの反対側にあるアルミブッシュの挿入方向を、装着する自転車のオーバーロックナット寸法に合わせて入れ替え、長さを調節します。



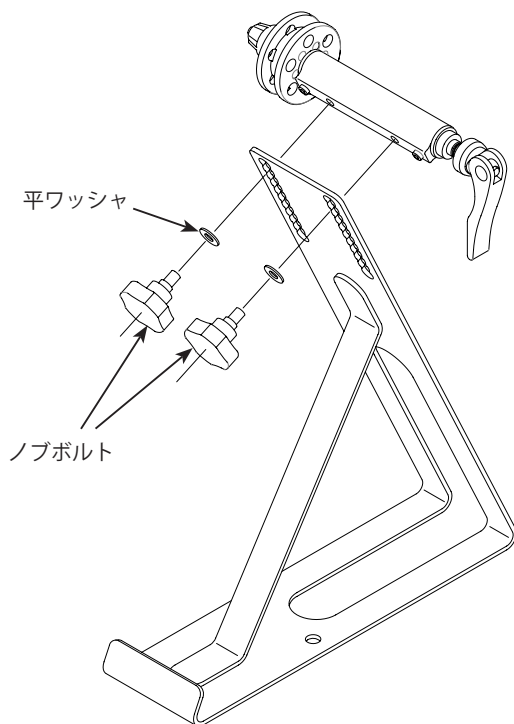
幅が合わないまま無理に使うと、自転車のフレームを变形・破損させてしまいます。必ず正しく合わせてください。



プーリーは反対側には移動できません。



- 2** アルミブッシュが不意に外れてしまわないように、下にあるイモネジ（太矢印部分）を軽く締めて固定します。
- 3** 再びクイックリリースを組み付け、本体にノブボルトと平ワッシャとで締め付けて固定します。エンド受けが水平になるよう場所を選んで止めます。



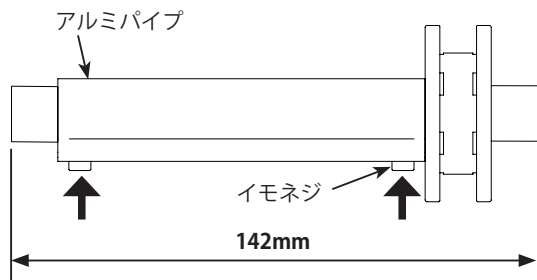
- 4** フレーム後端をクイックに掛けて保持し、レバーを締め付けて固定します。チェーンはプーリーの溝に掛けておけば垂れ下がって床を汚すことはありません。

12mm スルーアクスルの場合

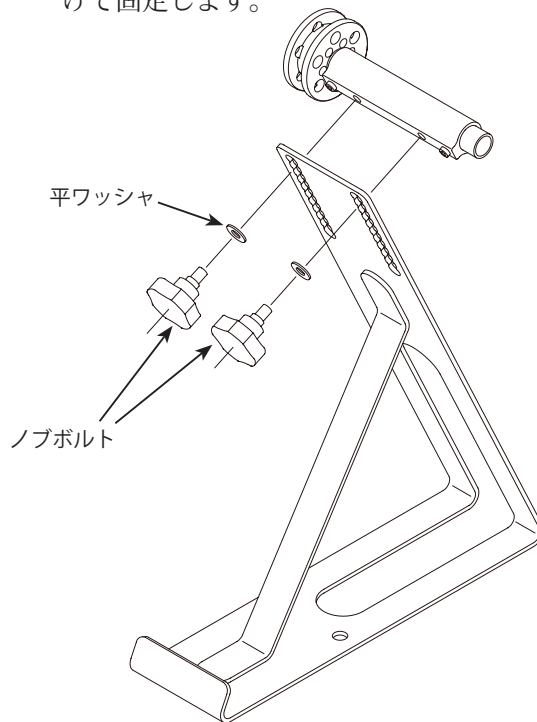
- 1** まず取り付けられているクイックリリースを抜き取り、続いてアルミブッシュと樹脂プーリーも抜き取ります。
- 2** 添付のアルミカラーをエンド受けに挿入し、そこにプーリーも通します。左右の突き出し量がほぼ均等になるように位置を調整してから、下側にあるイモネジ（太矢印部分）を両方とも軽く締めて位置決めします。



イモネジを強く締め過ぎるとアルミパイプが变形してしまい、アクスルを通せなくなってしまいます。



- 3** エンド受けが水平になるよう注意を払いながら、本体にノブボルトと平ワッシャで締め付けて固定します。



- 4** 自転車を保持するには、自転車側に装備されているアクスルパイプを使用します。本商品には添付されておりません。フレーム後端をエンド受けにあてがい、アクスルパイプを貫通させて保持し固定します。



注意していただきたいこと

床に直接固定しない限り、自転車は車体に固定されているわけではありません。荒い運転をすると、自転車が移動したりぶつかったりして破損することがあります。自転車がずれたりしない程度の穏やかな運転を心がけてください。